

秋高陸上器會報

題字：加藤邦彦

第27号

令和8年2月28日発行
発行者：秋田高校陸上部OBOG会
印刷：(株)パウハウス



新顧問の秋元です

令和7年度の3年生11人。卒業後はOBOG会もよろしくね！

今年度より新しく顧問になりました秋元延大(写真後列左から2人目です。私自身の専門は100m・200mで、前任の南都先生と同じ順天堂大学で日本一を目指して競技に取り組み、リレーと学校対抗で目標を達成することができました。チームの成長と個人の成長を大切に、「リレー・駅伝を含めた学校対抗優勝」と「全国大会優勝」を目標に秋田高校陸上部の発展に貢献していきたいと思えます。今後とも何卒よろしくお願いたします。

男子駅伝チーム 創部以来初！ 東北大会出場

田口大貴コーチから
(平成22年卒 写真中列左)



全県駅伝大会において、本校陸上競技部男子駅伝チームは、創部以来初となる東北大会出場を果たしました。

日頃よりOB・OGの皆さまには、温かいご支援とご声援を賜り、心より感謝申し上げます。諸先輩方から受け継いだ襷を、新たなステージへとつなぐことができ、大変うれしく思います。

しかし、彼らの挑戦はここで終わるものではなく、その先の高みを見据えています。秋高生らしく文武両道を高い志のもとで体現しながら、描いた夢の実現に向け着実に歩みを進めています。

今後もその歩みを支え、共に楽しんでいきたいと思えます。

引き続きご支援、ご声援をよろしくお願いたします。



昨年11月6日、東北高校駅伝を走り終えて(右端は松橋会長)



昨年5月10日に開催した令和7年度総会。前列中央が三船OBOG会顧問



昨年7月の中央支部駅伝にも応援に来てくれました



故三船元会長

追悼 56年間の感謝 佐々木時夫前会長(昭和47年卒)

三船先生は昭和31年秋田高校卒。昭和35年に母校に講師として赴任し、38年から教諭として54年3月まで16年間、私たちを優しく時に厳しく指導してくださいました。私は高校入学と同時に陸上競技部に入部。象潟や六郷での合宿等を経て46年台風の鳴門インターハイでは、キャベツ1個にマヨネーズの差し入れ、予想に反しての予選通過で、帰秋時は予定外の飛行機と新幹線が人生初経験で、これも楽しい思い出です。大学卒業後は、競技場で「技術総務」として大会運営の基礎を学ばせていただきました。先生は54～56年度のスポーツ会館や冬季国体事務局を

経て57年に中央高校に赴任。58年の全国高校駅伝で、準優勝に導きました。TV中継で私の教え子が力走する姿に感激し、少しは先生に恩返しのできたかなと思いました。平成4年度からは県保健体育課併任県立中央公園に勤務。26年前には、停滞していた秋田高校陸上競技部OB会復活時の会長に就任いただき、私がバトンを受けた後も顧問として、OB・OG会入会式や駅伝激励会、競技場にもおいでくださり激励をいただいております。今年もOBOG会入会式でお目にかかれると思っておりましたが……。唯々 感謝の念で一杯です。合掌



OBOGだより
奇跡の邂逅

鷺尾 天 1984(昭和59)年卒

2025年3月、私はアメリカ・ロサンゼルスドルビーシアターにいました。米アカデミー賞に出席するためです。東映アニメーションでプロデューサーを勤めている私は、フルCG短編アニメーション「あめだま(英題: Magic Candies)」(21分)を企画・製作し、世界各地の映画祭で表彰された結果アカデミー賞にノミネートされるという栄誉を受けました。スタッフ十数名と現地入りしたものの、自分の世話だけで手いっぱいだったので、スタッフは現地のコーディネーターを雇いました。秋田出身の日本人女性で、とても気さくな素晴らしい方でした。表彰式では受賞こそ逃したものの、並みいるハリウッドスターたちと肩を並べてレッドカーペットを歩くという大変貴重な経験をしました。翌日、帰途のロサンゼルス国際空港に向かう車中でスタッフの一人が、「あの、コーディネーターの方のお父様が鷺尾さんを知っているかもしれないとおっし

やっていたそうで…」
「え？ どういうこと？」
「確か鷺尾さん秋田高校で陸上部でしたよね？ お父様も陸上部だったそうで…」
「！！！！ まさか、私のひとつ上のキャプテンだったE藤さん？」
なんというご縁！ なんという奇跡！ 私は陸上部の一つ先輩のE藤さんの娘さんと遠いロサンゼルスで会っていたというわけです。ともに短距離で100・200を走り、リレーでバトンを渡す間柄だった先輩の娘さんだったとは…
残念なことにお父様の思い出話を娘さんとする事はできなかったのですが、はるか40年の歳月を越えて、素敵な出会いがあったというお話でした。
皆様も「人生の出会い」を大切になさってください。





OBOGだより 「あれから30年、応援のかたち」

櫻庭一馬 1997(平成9)年卒



マイルリレーでインターハイ出場

高校を卒業して約30年が経ちました。老眼が進み、上カルビがきつくなり、色々な記憶が薄れてきていますが、濃厚な青春時代を過ごした陸上部の思い出は都合よく切り取られ今もキラキラと輝いています。

大会最終種目のマイルリレー決勝では、メインスタンドのゴール付近に陣取った部員全員による「しゅ〜こ〜〜！秋高！ファイッ！秋高！ファイッ！秋高！ファイッ！」の大合唱応援が定番でした。リレー走者であった私はいつもこの応援に痺れていました。

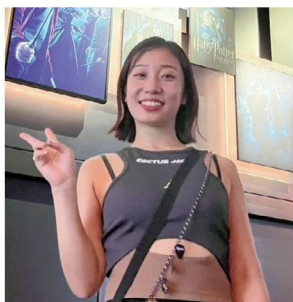
レース後かけられる祝福や労いの声はどれもガラガラに枯れていて、その全力の応援に心から感謝し、胸が熱くなったことを覚えています。

高2の東北大会、会場は雄和。これまで何度も阻まれてきた準決勝を通過し、決勝では2秒近くベストを更新して5位、念願のインターハイ出場を果たしました。地元開催でこの応援が追い風になったのは間違いありません。応援される喜び、応えるための努力、全力を出し切る根性、多くのことを学ばせていただきま

した。

数年前、気管支喘息を発症し呼吸機能検査を受けました。若い技師さんが「頑張って！もう少し、もう少し！」と声をかけてくれます。応援されたら全力で応えなければなりません。自分の力を出し切りました。結果、主治医には「アスリート並みの肺活量ですね」と驚かれました。ところが、数日後に気胸を発症し、胸に管を入れられ一週間入院しました。頑張りすぎて肺に穴が空いてしまったようです。あれから30年、頑張るのもほどほどにしないとイケませんね。

現在、私は通町商店街にある大町内科外科クリニックで診療を行っています。患者さまには、「無理しないで、マイペースでね」「少しずつ頑張りましょう」など、応援することがライフワークとなっています。声を枯らすようなパワーはありませんが、現役部員の皆さまにも陰ながらエールを送っていきたいと思います。



OBOGだより 「思い出」

塚田美羽 2018(平成30)年卒



全県総体で秋高史上初、女子総合優勝！

現在、私は警察官として日々事件解決のために現場を走り回っています。現場では一つとして同じ状況はなく、限られた情報の中で冷静に判断し、仲間と連携しながら真実に近づいていくことが求められます。困難な場面に直面することも多いですが、最後まで諦めず粘り強く向き合う姿勢は、高校時代の陸上部で培われたものだと感じています。

高校時代、私たち女子陸上競技部は、秋高史上初の全県総体女子総合優勝を果たしました。目標に向かって、学年や性別の垣根を越え、互いに声を掛け合い、アドバイスをし合いながら練習に励んでいました。種目は違って、時には一緒に悩み、時には喜びを共有しながら、それぞれがそれぞれの形でチームに貢献で

きるような、そんなチームでした。

そして何より、「南都先生に優勝旗を持たせてあげたい」という一心で、部員全員が同じ方向を向いて努力できたことが、結果につながったのだと思います。

優勝という経験はもちろん大きなものでしたが、それ以上に、チームメイトと同じ目標に向かって、常に高いレベルをめざしていた日々が、今の私にとって本当に大切な思い出です。

また、昨年初めてOBOG総会に参加させていただき、とても楽しい時間を過ごしました。世代を超えて陸上の話で盛り上がり、この高校の陸上に対する変わらない熱さを強く感じました。ぜひ次回も参加し、また皆さんとお会いできることを楽しみにしています。